

令和7年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

農業高校としての機能を最大限に活かし、都市の食と農の発展と環境保全に貢献するスペシャリストを育成し、地域に必要なとされる学校をめざす。

- 1 基礎的・基本的な知識・技能の定着と、これらを活用して主体的に課題を解決するための思考力、判断力、表現力、創造力などを身に付けさせる。
- 2 SDGs の理解、生命と人権、自然と環境を大切にする態度を育むとともに、自らを律することができる規律・規範を身に付けさせ、心身の健やかな成長を支援する。
- 3 実験・実習・課題研究などを通して、専門的な知識・技能・社会人としての基礎を身につけさせ、将来の夢や目標を形作り、進路を自ら選択・決定する力やチャレンジ精神を育む。
- 4 地域や産業界等との連携を密にし、多様な社会資源を活用した教育活動を展開し、地域からの府立高校としての期待やニーズに応える。

2 中期的目標

1 確かな学力の育成

(1) 社会に開かれた教育課程の実践

ア 農業高校としての強みを活かし、社会と連携・協働しながら、未来の創り手となるための資質・能力を育むための教育課程を実施する。

イ 「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」といった資質・能力を着実に育成する。

*各学科ごとに育成したい資質・能力を明確化し、それを実現するためのカリキュラムデザイン開発に取り組む。

(2) 教科等で身に付けさせるべき基礎学力について研究し、それらを定着させるための組織的な指導を行う。

ア 1年生の国語、数学、英語において、少人数授業をできるだけ導入し、個々の生徒に応じた、きめ細かな指導により「できた」「わかった」の授業場面を大切にし、基礎学力を向上させる。

*授業アンケート項目8「授業内容に興味・関心をもつことができた」(R4 3.41 R5 3.53 R6 3.54)を令和9年度には3.57にする。

イ アクティブラーニング、宿題の活用、放課後等の補習・講習などにより、授業時間以外での学習を増加させ、生徒が主体的に学習に取り組むための環境づくりを進める。

*授業アンケート項目1「必要な学習(課題、宿題等)ができています」(R4 3.53 R5 3.63 R6 3.63)を令和9年度には3.66にする。

ウ ICT機器を活用し、授業内での1人1台端末の活用をより積極的に行い、自学自習とアウトプット習慣の確立をめざす。

*学習支援クラウドサービスの活用により、自宅での自学自習の習慣づくりをおこなう。

*授業内外での利用率向上をめざし、1人1台端末の有効な利用方法について共有を図る。

(3) 専門教科において課題解決能力の育成を図り、実践的で高度な専門技術、知識習得へつなげていく。

ア 卒業後を見据えた各科、各コースで育むべき力を明確にし、その育成のために必要なカリキュラム、授業方法、普通教科との連携方法について研究する。

*授業アンケート項目9「知識や技能が身についたと感じている」(R4 3.43 R5 3.54 R6 3.55)を令和9年度には3.58にする。

イ 課題研究や農業クラブ活動での研究プロジェクトを通じ、課題解決能力につながる思考力、判断力、表現力、創造力を育成させる。

*農業クラブ大阪府研究発表会に向けた校内での発表本数を現状維持し、卒業研究発表会の充実へとつなげていく。

ウ 企業連携や地域連携を通して、地域の課題解決に取り組み、生徒の知的財産への理解、創造性、主体性、自主性の醸成につなげていく。

*地域連携を深め、地域に根差した「園芸高校ブランド」を形成する。

2 安全安心で魅力ある学校づくり

(1) 生徒に自ら律することのできる規律・規範意識の醸成を図る。

ア 教職員全員が丸となり、時間を守り、社会から信頼される生徒を育成するために、欠席、遅刻、頭髪、ピアス、授業規律、携帯電話モラル、登下校時のマナー、清掃活動、美化などに対する指導を徹底する。

*遅刻による早朝指導対象生徒数(R4 77名 R5 47名 R6 41名)を毎年1割以上減らし、令和9年度には28名にする。

(2) 修学上の支援を必要とする生徒に対する支援体制の充実とともに、職員のカウンセリングスキルの向上、生徒を取り巻く状況等の把握と生徒に向き合う指導を確立する。

ア 職員研修の充実、教育相談体制、いじめ防止体制をさらに充実するとともに、生徒の豊かな心を育むため教職員の意識・意欲の醸成を図る。

*生徒向け学校教育自己診断項目「先生は生徒のことを一生懸命考えてくれる」(肯定率 R4 90% R5 88% R6 85%)を令和9年度には90%にする。

イ 生徒一人ひとりの教育的ニーズを把握し、将来の自立、社会参加をめざした効果的な指導・支援の充実を図る。

*ともに学びともに育つという理念にもとづき、自立支援コースを含めた学校全体の支援教育体制・情報共有体制を充実させ、情報共有を積極的に行う体制を維持する。

ウ 中途退学・不登校の未然防止のため、関係機関との連携やスクールカウンセラー等の専門人材の活用を進め、生徒の状況に応じた指導を推進する。

*年度末の進級率・卒業率(R4 92% R5 93% R6 94%)を令和9年度に98%とし、それを維持する。

(3) 学校の魅力の発信

ア 府民、地域、中学校等へ学校情報を迅速かつ魅力的に発信する。

*学校説明会や体験入学会の充実、広報資料作成、学校ウェブページ更新、報道提供を推進する。

*地域や企業との連携を深め、中学校への出前授業の充実や近隣市町村・企業・義務教育学校との合同事業を活性化する。

3 夢と志を持つ生徒の育成

(1) 専門知識・技術を活かした、キャリア形成、進路指導、進路実現をめざす。

ア 就職希望者については、担任・学科・進路が協力し、農業現場を含めた企業実習や見学に参加させ、ミスマッチの無い就職指導を行う。

*学校紹介による就職率100%を維持する。関連分野への就職を促す。専門的知識・技術を生かした専門職への就職を進める。

イ 進学希望者については、進路指導部が主体的に学年、学科、教科と連携し、農業クラブ活動や講習会への参加、小論文指導など、個に応じた進学指導体制を確立する。

*国公立大学や難関私立大学への進学者10名以上を維持する。(国公立・難関私立大学 進学者数 R4 16人 R5 12人 R6 18人)

ウ 学校から、社会・職業へと移行した後まで見通した系統的な指導をし、各学科の学習内容を深めるとともに、キャリアアップを図るため、資格取得等を積極的に推奨する。

*アグリマイスター顕彰制度認定者(R4 8名 R5 10名 R6 14名)を令和9年度には16名にする。

*キャリアコンサルタントを活用しながら、早期から進路についての意識の醸成を図る。

エ 生徒一人ひとりの力を伸ばしていくために、教員力(教員一人ひとりの魅力)の強化

*教員一人ひとりの指導力の向上のために、常に一歩先への意識を持ち、先端技術の習得や外部への研修、校内のみならず、他校への授業見学を積極的に支援する。

<p>(2) 特別活動や生徒会活動、農業クラブ活動を通じて生徒の自己有用感を醸成するとともに、集団や学校への帰属意識を高める。</p> <p>ア 行事や生徒会活動、部活動等を通じて、集団の中で人と調和しながら活動できる能力を育成する</p> <p>*生徒向け学校教育自己診断項目「高校生活に自分なりの目標を持っている」(肯定率 R4 78% R5 77% R6 80%)を令和9年度には83%にする。</p> <p>イ 農業クラブを活性化させることにより、達成感を多く味あわせ、科学的背景をもった、農業技術者としての成長を図る。</p> <p>*農業クラブ加入率(R4 58% R5 56% R6 65%)を令和9年度に70%とし、それを維持する。生徒、保護者、地域関係者等を対象とした研究発表会を開催する。</p> <p>4 校務の効率化と働き方改革の推進</p> <p>(1) ICTの活用</p> <p>ア グループウェア等を活用した、ペーパーレス化、校務運営の効率化を図る。</p> <p>*教職員の一人ひとりの業務の見える化を行い、業務分担の見直しを行う。</p> <p>*会議の精選等を進め、参集型でなく、Web会議システムを活用した会議の実施をめざす。</p> <p>*業務で作成した完成ファイル、マニュアルの作成・共有化により、事務作業時間を減らす。</p> <p>(2) 教職員のライフステージに応じた働き方改革の実施</p> <p>ア ライフステージに応じた働き方改革を進め、生徒の教育とやりがいのある教員生活の両立を図る。</p> <p>イ 学科・教科を超えたワーキンググループでの活動を通して、学校経営への参画意識を醸成し、ミドルリーダーを育成する。</p> <p>*教職員の業務の見える化により、業務をスリム化し、定時退庁日に定時退庁できる業務分担を実施する。</p> <p>(3) 教職員の服務規律等についての意識向上を徹底する。</p> <p>ア 学期ごとに服務規律やハラスメントについての規範意識を醸成する。</p> <p>*教職員の問題事象をなくし、綱紀保持の事例を共有し、ハラスメントについても問題意識を持って公務に当たるように研修を実施する。</p>
--

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和 8年 1月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>1. 令和7年度 学校教育自己診断(生徒)分析 (結果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・設問全19問のうち、肯定率80%以上は13問、うち90%以上は4問あった。 ・全設問において、肯定率50%を大きく上回り、最低値は設問19の62%であった。 ・昨年度との比較において、0%以上のプラスになった設問は15問あり、マイナスになったものは4問であった。 <p>(考察)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度との比較において、設問19が大きくマイナスになった背景には、設問17の教職員が操作するICT機器と生徒1人1台端末の使用の区別がつかずに回答したためと考えられる。 ・設問16のマイナス評価は、本校校舎等の老朽化が激しく、視覚的に生徒の目に触れ、このような結果になったと考えられる。 ・設問1「学校へ行くのが楽しい」が、昨年度同様83%を維持できていることは、授業及び校内体制等において教職員集団の能力及び努力の成果と考えられる。 ・設問2「この学校には、他の学校にない特色がある」において、96%の肯定率を示していることは本校の魅力を生徒たちも理解していると考えられる。 <p>2. 令和7年度 学校教育自己診断(保護者)分析 (結果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・設問28「PTA活動に参加することがある。」以外で肯定率は過半数を大きくこえた。 ・肯定率80%以上が16問、90%以上が6問となり、全28問中80%以上が22問となった。 ・肯定率最低は、設問28「PTA活動に参加することがある。」の32%であった。 <p>(考察)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・肯定率が最低であったPTA活動に関する設問28については、昨年のもより内容を変更し問うたことによる数値と考えられる。保護者は、設問21「この学校の授業参観や学校行事に参加したことがある。」の行事への参加は盛んであるが、PTA活動(総会等各種会議)への参加率は低いのが現状である。 ・設問3「この学校は、他の学校にはない特色ある教育活動に取り組んでいる」の肯定率が、98%であることは、生徒の設問2の回答と比較しても差異なく、本校の取組みが保護者及び生徒に高評価であると考えられる。 ・設問7「子どもの心身の健康について、気軽に先生に相談できる。」の昨年度との比較において、+6になったことはSC(専門人材の活用)が生徒のニーズに合致している(毎回、予約が満員となる)からと考えられる。 ・設問25「学校は、教育情報について、提供の努力をしている。」の昨年度との比較において、+6になったことは、連絡ツールの活用が家庭と学校の円滑な情報共有に役立ったためと考えられる。 	<p>○第1回(6月23日)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 会長および副会長の選出 2. 協議 <ol style="list-style-type: none"> (1) 保護者からの意見提出の状況について <ul style="list-style-type: none"> ・6月23日時点で、保護者からの意見なし (2) 令和7年度 学校経営計画および学校評価について <ul style="list-style-type: none"> ・学校長より説明 ・委員より、「早急に魅力発信、特に北摂中学校にしてほしい」という意見があった。 →今年度は前年度のご意見を受けて、数字を使ったポスターを作成した。 ・「どうやってこの魅力ある学校の良い点を発信していくか」という質問があった。 →「教師ではなく生徒が前面に出て、出前授業などで魅力発信するなどを行う。」と回答した。 ・「本当に今の教員数で働き方改革はできるのか」という質問があった。 →教員定数に対して機会があれば思いを伝えていくと回答した。 (3) 令和7年度 各分掌等の取組目標について <ul style="list-style-type: none"> ・「出前授業は効果があると考えられるか」という質問があった。 →そう考えている旨を説明した。 ・「中学の現場では、私学専願はここ数年でかなり増えているため、私学と勝負するには中身であると思う。本校には中身で勝負できる部分は沢山あるため、魅力発信をして、中学生の意識に刺さるように頑張してほしい」という激励があった。 →管理職マターで、近隣中学校の3年生に対して、学校訪問による学校紹介をすでに複数校実施し、今後も行っていく旨を説明をした。 (4) 令和6年度 卒業生進路状況について <ul style="list-style-type: none"> ・「高卒で技術を持っているというところは価値があるため、本校生徒の評価とニーズが高い」という報告を受けた。 <p>○第2回(11月25日)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 校長挨拶 2. 協議 <ol style="list-style-type: none"> (1) 保護者からの意見提出の状況について <ul style="list-style-type: none"> ・11月25日時点で、保護者からの意見なし (2) 第1回授業アンケートについて <ul style="list-style-type: none"> ・グラフは傾向としてみることは分かるが、いい結果をアピールして良いという助言があった。 (3) 学生によるプロジェクト発表(「放置竹林」の有効利用について) <ul style="list-style-type: none"> ・「大阪公立大学と同等の研究ですばらしい」と褒められた。 →「農業クラブは全国規模の取組みで、今年は近畿までいった。このような取組みも農業高校の強みである」という説明をした。 3. 進路概況について <ul style="list-style-type: none"> ・就職で農業関係はいるかという質問があった。 →「農協や関係企業は大手が多くある」と回答した。 <p>○第3回(2月24日)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 校長挨拶 2. 協議 <ol style="list-style-type: none"> (1) 令和7年度 学校経営計画および学校評価 (2) 令和8年度 学校経営計画および学校評価 (3) 令和7年度 各分掌等の取組目標・評価 (4) 令和7年度 卒業生 進路状況 (5) 学校教育自己診断について (6) 授業アンケートについて

<p>3. 令和7年度 学校教育自己診断（教職員）分析 （結果）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・設問全36問のうち、肯定率80%以上は23問、うち90%以上は9問あった。 ・肯定率において、最高値は設問2の100%、最低値は設問28の38%であった。 ・昨年度比において、マイナス幅が最も大きかった設問は、設問21であった。 <p>（考察）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・設問2「この学校の教育活動は、他の学校にはない特色がある」の肯定率100%という数値こそ、他の学校にはない特色を本校が持っているという証明であると考えられる。 ・設問28については昨年度も低い数値を示したが、これは本校の施設や設備の老朽化が視覚化できるためと考えられる。 ・設問21の数値が昨年度との比較で大幅に減少したのは、本校赴任1年めのため、前年度の運営方針を踏襲し、大きな変更を示さなかったためと考えられる。 	<p>(7) 令和8年度の使用教科書について (8) その他</p> <p>(1) について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容と興味関心において0.01ポイント向上した。 ・カウンセラーとの連携をとり、生徒のサポートを最大限にできた。 ・同窓会より支援を受け、学校案内パンフレットを刷新することができた。 ・京都教育大学などはじめ、大学への合格、進学者数が増加している。進学・就職に関わらずより実績の向上に努める。 ・授業アンケートにおいて、必要な学習課題ができていない項目において0.02ポイントの減少が見られた。基本的な学力の定着を図るとともに、規律ある学校生活の確立を目指す。 ・出願者の定員割れが続いている。魅力発信と同時に学校の出口保障など令和8年度の学校経営計画に改善点としていく。 <p>質問・コメント</p> <p>Q 校長挨拶時のベルギーからの視察と学校案内パンフレットの刷新と因果関係はあるか。 A なさそうである。HPを見たとの返事があった。</p> <p>Q 英語等の少人数授業の内容について A 内容について、回答をした。(具体的な内容については省略)</p> <p>Q スクールカウンセラーについて、転退学者とその理由 A ケースバイケースであり、カウンセラーが必要と判断した場合は活用している。転退学者の多くは欠時数の積み重ねである。</p> <p>(2) について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和8年度案について、令和7年度と大きな変更はない。生徒が卒業時に園芸高校でよかったと思えるよう、校内での指導の充実を図っていく。 <p>令和8年度は5つの念頭において作成</p> <p>ア 基礎学力の定着 イ 成果発表の場の創出、園芸高校らしさの発信 ウ 進路保障 エ 規律ある学校生活の確立 オ 国際交流</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題が残った授業アンケートの項目の改善に取り組む。 ・中期的目標は令和7年度と変更なし。 <p>Q (卒業研究発表会の内容は素晴らしい。提案として、卒業研究発表会の様子も動画配信サービスなどのSNSを活用して情報発信してみてもどうか。テレビに取り上げられた活動についてもっと池田市の広報やテレビ局との連携を強化してみてもどうか。 A テレビ番組の内容の事前告知は放送内容の変更の可能性があり、制限がある。</p> <p>Q 園芸高校は目的意識がはっきりしている。基礎学力の定着として中学校の教科書レベルでも問題を繰り返し解かせることで「できるようになった」と成長を感じられる方法もある。 A 外部模試なども活用できれば</p> <p>(3) について</p> <p>教務部より</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成績の確認の徹底する。 ・カリキュラムの細かな変更も魅力の発信につなげたい。 <p>進路指導部より</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国公立大学、幹旋就職について のちほど説明する。 <p>生活指導部より</p> <ul style="list-style-type: none"> ・懲戒件数や遅刻者総数など現状を提示。 <p>保健部より</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校および生徒の健康について活動している。 <p>フラワーファクトリ科より</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年の3年生の評価が高かった。それにともない今年度は目標をやや下回る結果となった。 ・入学志願者数の倍率も目標の1.1倍には至らなかった。 ・外部連携件数は増加している。しかし、外部連携活動を十分に発信するに至らなかった。日々の業務とのバランスをとりたい。 ・4年連続で国公立大学への合格者が出ている。 <p>バイオサイエンス科より</p> <p>資料提示</p> <p>環境緑化科より</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路に応じた指導を行っている。1クラスだが、4年生大学への進学者数は他科とほぼ同数である。 ・入学志望者数の定員割れが続いている。 ・造園系の資格では高い合格率であった。難関資格にも挑戦させ、就職に繋げている。 <p>(4) について</p> <p>資料の提示。近畿大学、龍谷大学への合格者もあり。</p> <p>(5) について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒332人より解答があった。 ・19問中90%以上は4問、80%を超えたものが13問あった。生徒からの評価は高い。 ・教員を対象としたアンケートでも一部の特色に関する設問で100%がでた。 <p>Q 次回の調査で100%を下回らないようにしてほしい。 A 英語科の教員の目線から、すごいと思うことがよくあった。他の先生も同じではないか。</p>
--	--

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R6年度値]	自己評価
1 確かな学力の育成	<p>(1) 教科等で身に付けさせるべき基礎学力について研究し、それらを定着させるための組織的な指導を行う。</p> <p>(2) 専門教科において課題解決能力の育成を図り、実践的で高度な専門技術、知識習得へつなげていく。</p>	<p>ア・1年生の国語、数学、英語において、少人数授業をできるだけ導入し、個々の生徒に応じた、きめ細かな指導により「できた」「わかった」の授業場面を大切に、基礎学力を向上させる。</p> <p>イ・アクティブラーニング、宿題の活用、放課後等の補習・講習などにより、授業時間以外での学習を増加させ、生徒が主体的に学習に取り組むための環境づくりを進める。</p> <p>ウ・ICT 機器を活用し、授業内での1人1台端末の活用をより積極的に行い、自学自習とアウトプット習慣の確立をめざす。</p> <p>ア・卒業後を見据えた各科、各コースで育むべき力を明確にし、その育成のために必要なカリキュラム、授業方法、普通教科との連携方法について研究する。</p> <p>イ・課題研究や農業クラブ活動での研究プロジェクトを通じ、課題解決能力につながる思考力、判断力、表現力、創造力を育成させる。</p> <p>ウ・企業連携や地域連携を通して、地域の課題解決に取り組む、生徒の知的財産への理解、創造性、主体性、自主性の醸成につなげていく。</p>	<p>ア・授業アンケート項目8 「授業内容に興味・関心をもつことができた」を3.55にする。[3.54]</p> <p>・授業に集中して取り組める環境づくりとして、生徒とともに「授業準備徹底週間」を学期ごとに行う。</p> <p>イ・授業アンケート項目1 「必要な学習(課題、宿題等)ができています」を3.64にする。[3.63]</p> <p>ウ・学習支援クラウドサービスの活用により、自宅での自学自習の習慣づくりをおこなう。平日の学習時間が0時間の生徒の割合を減少させる[44%]特に、2年生の平日平均学習時間を倍増させる[55分]</p> <p>・授業内外での利用率向上をめざし、1人1台端末の有効な利用方法について研修を行い、積極的に授業に活用していく。研修会数は最低2回を維持する。[6回]</p> <p>ア・授業アンケート項目9 「知識や技能が身についたと感じている」を3.56にする。[3.55]</p> <p>イ・農業クラブ大阪府研究発表会に向けた校内での発表本数を維持し、卒業研究発表会へとつなげ維持していく。[校内予選33本 卒業研究発表会12本]</p> <p>・高大連携を4件以上実施し、先端技術の習得やDX化に取り組む。[4件]</p> <p>ウ・地域連携を深め、地域に根差した「園芸高校ブランド」を形成する。現在の「園芸ブランド」を維持するとともに、新規商品開発や新規の地域連携を行う。学科間で連携を取り、地域との協働を行う。</p>	<p>ア・授業アンケート項目8 [3.55] (○)</p> <p>・計画通り実施できた (○)</p> <p>イ・授業アンケート項目1 [3.61] (△)</p> <p>ウ・平日の学習時間が0時間の生徒の割合[42%] (○)</p> <p>・2年生の平日平均学習時間[60分] (○)</p> <p>・予定通り実施できた (○) [5回]</p> <p>ア・授業アンケート項目9 [3.55] (△)</p> <p>イ・維持することができた (○) [校内予選25本、卒業研究発表13本]</p> <p>・4件達成することができた (○)</p> <p>ウ・新規事業もあり、地域連携を深めることができた。(○)</p>
2 安全安心で魅力ある学校づくり	<p>(1) 生徒に自ら律することのできる規律・規範意識の醸成を図る。</p>	<p>ア・教職員全員が一丸となり、時間を守り、社会から信頼される生徒を育成するために、欠席、遅刻、頭髪、ピアス、授業規律、携帯電話モラル、登下校時のマナー、清掃活動、美化などに対する指導を徹底する。</p>	<p>ア・遅刻による早朝指導対象者生徒数を35名にする。[41名]</p>	<p>ア・早朝指導者数75名(延べ2424回) (△)</p>

府立園芸高等学校

	<p>(2) 修学上の支援を必要とする生徒に対する支援体制の充実とともに、職員のカウンセリングスキルの向上、生徒を取り巻く状況等の把握と生徒に向き合う指導を確立する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・繰り返し遅刻や違反をする生徒については、学年、学科と協力し、生徒の背景にも気を付けながら寄り添って指導していく。 ・授業開始時の指導を特に徹底する。「授業準備徹底週間」を生徒とともに実施することで、教職員のみならず、生徒自身での意識の醸成を図る。 <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導や対保護者対応の研修の実施や、教育相談委員会の定期開催。早期のいじめの発見対応を学年・いじめ対策委員会で行えるスキームを徹底する。 <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒一人ひとりの教育的ニーズを把握し、将来の自立、社会参加をめざした効果的な指導・支援の充実を図る。 <ul style="list-style-type: none"> ・担任だけで抱えるのではなく、学校全体として取り組めるよう情報共有の場を設ける。 <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中途退学・不登校の未然防止のため、関係機関との連携やスクールカウンセラー等の専門人材の活用を進め、生徒の状況に応じた指導を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・繰り返し早朝登校になる生徒に対して、学年・学科で取り組めたか検証する。また、学年別に、「遅刻防止強化週間」を継続して取り組む。 ・授業アンケートの「生徒取組 2 教科書などの必要なものだけを机の上に出し、集中して授業を受けている。」の項目を 3.64 にする。[3.63] ・「授業準備徹底週間」を生徒とともに実施することができたか。全体での取組みだけでなく、学年別に、重点期間を設ける。 <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒向け学校教育自己診断項目「先生は生徒のことを一生懸命考えてくれる」の肯定率を 87% にする。[85%] <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ともに学びともに育つという理念にもとづき、自立支援コースを含めた学校全体の支援教育体制・情報共有体制をさらに充実させる。全職員での取組みにつなげるため、支援関係の研修回数を実施する。[1回] <ul style="list-style-type: none"> ・学年別情報共有会が実施できたか。学年会で、情報共有が積極的になされたか。いじめ対策委員会、人権教育推進委員会、保健室等との連携ができたか。 <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中途退学・不登校の生徒に対して、カウンセラーやスクールソーシャルワーカーと連携できたか。教育相談委員会から連携した生徒数を維持し、早期対応を組織的にめざす。保護者への対応にも取り組む。[3人] <ul style="list-style-type: none"> ・適応できていない生徒を早期発見し、連携を取りながら対応できたか。7月までの早期転・退学の数0を維持する。[0名] ・年度末の進級率・卒業率を95%にする。[94%] <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校説明会や体験入学会の充実、動画での学校紹介、広報資料作成、学校 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度より指導方法を変更したので、その効果が出ている。(○) ・授業アンケート「生徒取組 2」[3.61] (△) ・計画通り実施することができた。(○) <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育自己診断 肯定率[86%] (△) <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支援関係の校内研修1回実施 (○) <ul style="list-style-type: none"> ・適宜実施をして情報共有ができた。(○) <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーにつなげた研修 3件 (○) ・7月までの退学者0名 (○) ・年度末進級・卒業率 [94%] (○) <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度は学校案内の冊子を刷新した。(○)
	<p>(3) 学校の魅力の発信</p>	<p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SNS や学校 Web ページの更新を定期的に行い、府民、地域、中学校等へ学校情報を迅速かつ魅力的に発信する。 	<p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校説明会や体験入学会の充実、動画での学校紹介、広報資料作成、学校 	<p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度は学校案内の冊子を刷新した。(○)

府立園芸高等学校

			<p>Web ページ更新、報道提供を推進できたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体験入学や学校説明会でのアンケート項目「学校の Web ページを見ましたか」の項目を作り、85%以上をめざす。[84.7%] ・地域や企業との連携を深め、中学校への出前授業の充実や近隣市町村・企業・義務教育学校との合同事業を活性化する。出前授業数は維持し、連携事業数 50 件にする。[出前授業数 11 校 連携事業数 48 件] 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校説明会・体験入学会での Web ページ閲覧割合 [84.5%] (△) ・概ね達成することができた (○) [15 校 43 件]
3 夢と志を持つ生徒の育成	<p>(1) 専門知識・技術を活かした、キャリア形成、進路指導、進路実現をめざす。</p>	<p>ア・就職希望者については、担任・学科・進路が協力し、農業現場を含めた企業実習や見学に参加させ、ミスマッチの無い就職指導を行う。</p> <p>イ・進学希望者については、進路指導部が主体的に学年、学科、教科と連携し、農業クラブ活動や講習会への参加、小論文指導など、個に応じた進学指導体制を確立する。</p> <p>ウ・学校から、社会・職業へと移行した後まで見通した系統的な指導をし、各学科の学習内容を深めるとともに、キャリアアップを図るため、資格取得等を積極的に推奨する。</p> <p>エ・教員一人ひとりの指導力の向上のために、常に一歩先への意識を持ち、先端技術の習得や外部への研修、校内のみならず、他校への授業見学を積極的に支援する。</p>	<p>ア・関連分野への就職を促し、専門的知識・技術を生かした専門職への就職を進め、学校紹介による就職率 100%を維持する。</p> <p>イ・進路指導部を中心に、生徒一人ひとりの進路に即した授業選択ができているか、丁寧な指導を担当と学科共同で行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国公立大学や難関私立大学への進学者 10 名以上を維持する。[18 名] <p>ウ・キャリアコンサルタントを活用した進路指導が実施できたか。</p> <p>エ・校内での他学科の授業研究を見学できたか。他学科の技術を学べる研修会を実施できたか。その際の満足度を 80%以上とする。[実施回数 0 回 0%]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門教育に関する校外への研修に参加できたか。参加者の人数 20 人以上をめざす。[16 人] 	<p>ア・就職率[100%](○)</p> <p>イ・国公立・難関私立大学進学者数 21 名 (○)</p> <p>ウ 計画通り実施できた。(○)</p> <p>エ 授業見学ウィークを設け、実施。(○) [2 回、78%]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施人数 16 名 (○)
4 校務の効率化と働き方改革の推進	<p>(1) ICT の活用</p> <p>(2) 教職員のライフステージに応じた働き方改革の実施</p>	<p>ア・グループウェア等を活用した、ペーパーレス化、校務運営の一層の効率化を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会議の実施の精選を進め、参集型でなく、Web 会議システムを利用し、個々の場所での会議への参加をめざす。 <p>ア・ライフステージに応じた働き方改革を進め生徒の教育とやりがいのある教員生活の両立を図る。</p>	<p>ア・ペーパーレス化ができたか。連絡に学習支援クラウドサービスが利用できたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会議の精選等ができたか。年間会議回数を維持する。[44 回] ・Web 会議システムを利用して会議を実施できたか。[0 回] <p>ア・府の定時退庁日の定時退庁率 55%をめざす。[52%]</p>	<p>ア・かなりペーパーレス化が進んでいる。(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間会議回数を維持することができた。(○) [44 回] ・今年度は利用できなかった。(△) <p>ア 定時退庁率[54%] (○)</p>

	<p>(3) 教職員の服務規律等についての意識向上を徹底する。</p>	<p>ア・学期ごとに、服務規律やハラスメントについての規範意識を醸成する。</p> <p>イ・個人情報の取り扱いについて、校内での周知徹底を行う。</p>	<p>ア・教職員の問題事象をなくし、綱紀保持の事例を共有し、ハラスメントについても問題意識をもって、校務にあたるように、研修を実施する。綱紀保持の研修年2回以上を維持する。[2回]</p> <p>イ・個人情報の取り扱いについて、定期考査初日と学期ごとに校内での周知徹底を行う。</p>	<p>イ職員会議を通じて年3回維持 (○)</p> <p>イ 予定どおり実施することができた。(○)</p>
--	-------------------------------------	---	--	--